

# 景況調査

報告書 NO. 79

平成30年 4月～6月 実績  
平成30年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

# 平成30年度第1四半期(H30. 4～6月)景況調査

1. 調査時点 平成30年6月8日～29日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内  
 (2)対象(回答)企業 109[102企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	50 (3)	11 (2)	13 (1)	17	9 (1)	9	109 (7)

※ ( )は団体

5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、前期比で△7.4、前期実績(1～3月△18.4)に比較すると11.0ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、前年同期比では△7.4、前期実績(1～3月△12.3)と比較すると4.9ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△5.5ポイント、前期実績(1～3月12.3)と比較すると6.8ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△17.4、前期実績(1～3月△15.0)と比較すると2.4ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H30.7～9月)見通し**については△7.3、今期の実績(全業種(当期実績)前期比△7.4)と比較すると0.1ポイントの下降とDI値の上昇は見られるも水面下の状況であった。

「**製造業**」のうち食料品は、閑散期の反動で業況は上昇も前年同期比では低調。織物は、多重織りガーゼ素材は受注安定もやや落ち着きを見せた。ジャカードは深刻な状況。漁網・ロープは総合的には4・5月期は出荷・販売額とも前年同月比をやや上回った。一方で運賃等値上げによる収益の圧迫も。鉄工のうち**工作機械関係**の好調な世界経済の影響で、過去最高の高水準で推移。自動車関係はトヨタの国内日当たり生産は、年度末商戦の反動もあり微減の1万2千台を中心に推移した。ミニバン・SUV車は好調も乗用車系が苦戦。化学は国内向けは堅調。輸出は中国中心に好調。プラスチックは売上は堅調に推移している。原料や運賃等の値上が採算を圧迫。

「**建設業**」は、年度末の需要期を過ぎて売上・収益・総合とも下降となった。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は<インテリア>4月は昨年並みに推移。5月は連休明けから徐々に注文も落ち着き例年並み。春夏商材も予定通りの動きで、6月は閑散期で天候の悪さで動きが鈍るが、概ね例年並み。<アパレル>素材では細番手強撚糸使いのボイル、オーガンジー、帆布ドビーなども動きあり。商品では夏物出荷ピークも全体的に低調。透け感のあるジョーゼット、パステルカラーの先染ボーダーに動きあり。

「**小売業**」は、年間で最も停滞する時期にあり、売上・収益・総合ともに下降となった。石油等その他小売は世界経済の回復により2017年は数年ぶりに需要超過に転じていた原油価格は、OPECの協調減産体制の堅持や、米国中心とした中東情勢の変化もあり高値圏で推移。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は4・5月の宿泊人数ベースは前年を上回る。好調なのはインバウンドで前年比1.5倍程度に達するが、多くは一泊朝食の低料金帯で客単価は伸び悩んだ。

「**運輸通信業**」貨物輸送では完成車の欧米向け輸出は月1万台以上と好調を維持。海上コンテナ貨物輸送も中国向けが好調で増加傾向。鋼材移入も需要増で堅調。旅客関係で対前年同期比で、概ね同程度の売上を確保できる予定。バスツアーの集客減でテコ入れが必要。

**設備投資状況**は、37事業所(55件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は35事業所(49件)が設備投資を計画している。

**経営上の問題点**では売上の停滞・減少、人手不足、利幅の縮小、原材料(燃料)高、人件費の増加が項目別で上位を占めていた。

当地区において

平成30年度第1四半期は、前期に引き続き小幅ながらほぼ全ての数値が水面下となった。業種別では、漁網・ロープ、鉄工、化学・プラスチック、繊維卸、旅館、旅客・貨物輸送・水運は好調・堅調な反面、他の業種では横バイから悪化の状況が見られた。また、経営上の問題点では、三期連続で人手不足が2位につけ慢性的な課題となりつつある。地方における個人消費の停滞感が長引く状況で、本所では平成29年度以降の新アクションプランの実行を通じて、地域経済の持続的発展を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

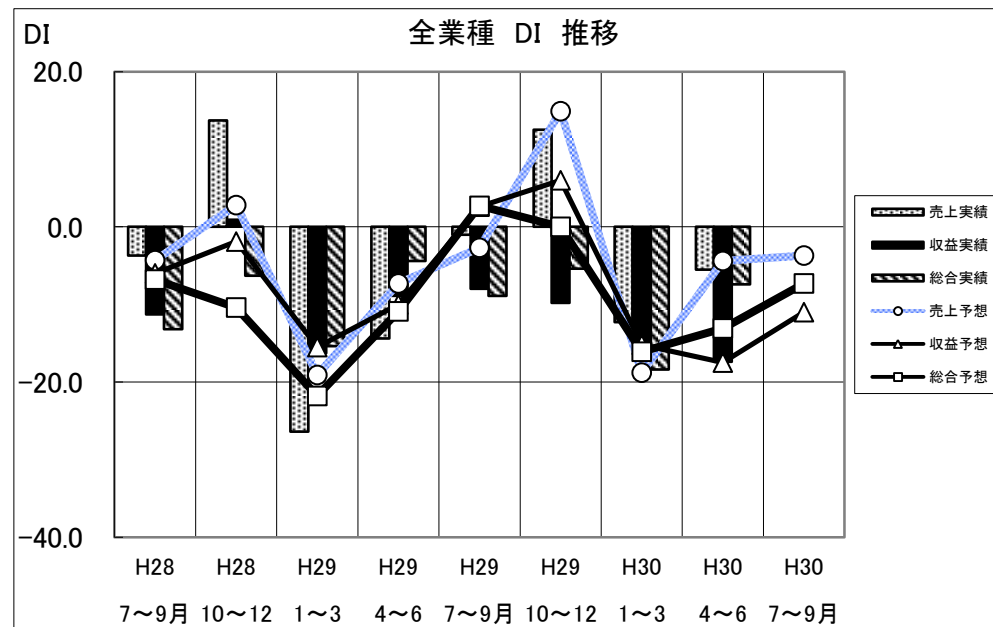
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-2.7	-5.5	-3.7	H29. 4～6月実績	-8.0	-14.4	-1.8	-8.9	-2.7	-4.4	2.7
②製品・商品在庫	-14.6	-8.3	-6.4	H29. 7～9月実績	0.0	-1.0	-8.9	-8.0	-2.0	-8.9	0.0
③資金繰り	0.0	-4.6	-9.3	H29. 10～12月実績	-2.7	12.5	-13.4	-9.8	-4.4	-5.4	-16.1
④採算(収益)	-11.2	-17.4	-11.0	H30. 1～3月実績	-0.9	-12.3	-16.7	-15.0	-12.3	-18.4	-13.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	10.1	2.8	5.5	H30. 4～6月実績	-2.7	-5.5	-11.2	-17.4	-7.4	-7.4	-7.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-7.4	-7.4	-7.3								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-3.7	13.7	-26.4	-14.4	-1.0	12.5	-12.3	-5.5	-3.7
収益	-11.3	0.9	-16.3	-8.9	-8.0	-9.8	-15.0	-17.4	-11.0
総合	-13.2	-6.3	-15.4	-4.4	-8.9	-5.4	-18.4	-7.4	-7.3

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)

資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)

従業員数 :DI=(増加)-(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



## 6. 業種別報告

### 製造業

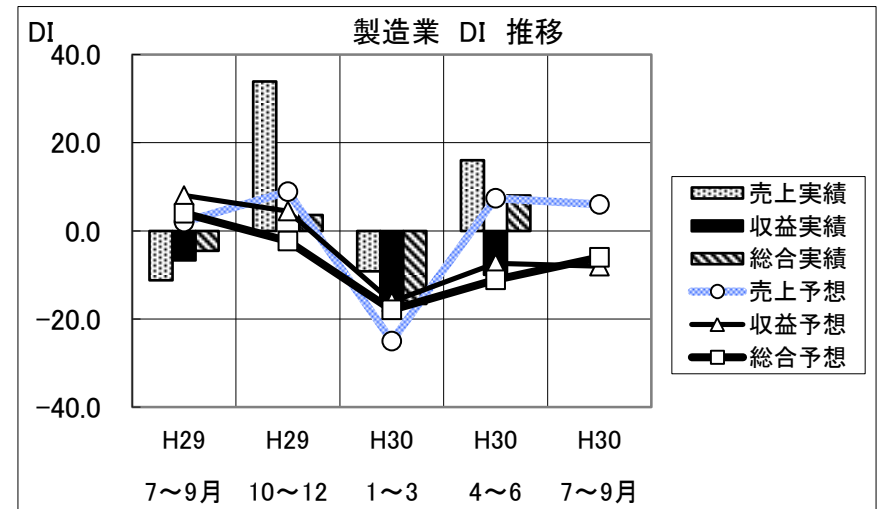
売上DI値は16.0、前期実績(1~3月期  $\Delta 9.2$ )に比して25.2ポイントの上昇、収益DI値は $\Delta 10.0$ 、前期実績(1~3月期( $\Delta 16.7$ ))に比して6.7ポイントの上昇、総合判断DI値は8.0、前期実績(1~3月期( $\Delta 16.6$ ))に比して24.6ポイントの上昇と、売上・集積・総合ともにDI値の上昇が見られた。

向こう3カ月の見通し 売上はプラス値。収益・総合はマイナス値も、いずれの数値もほぼ横バイの傾向がみられる。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月~6月 に比べて	前期比 平成30年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	8.0	16.0	6.0
②製品・商品在庫	-16.0	-6.0	-2.0
③資金繰り	-2.0	0.0	-16.4
④採算(収益)	-14.3	-10.0	-8.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	32.0	24.0	14.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	8.0	-6.0



#### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-11.2	33.9	-9.2	16.0	6.0
収益	-6.7	0.0	-16.7	-10.0	-8.0
総合	-4.5	3.6	-16.6	8.0	-6.0

### [食料品]

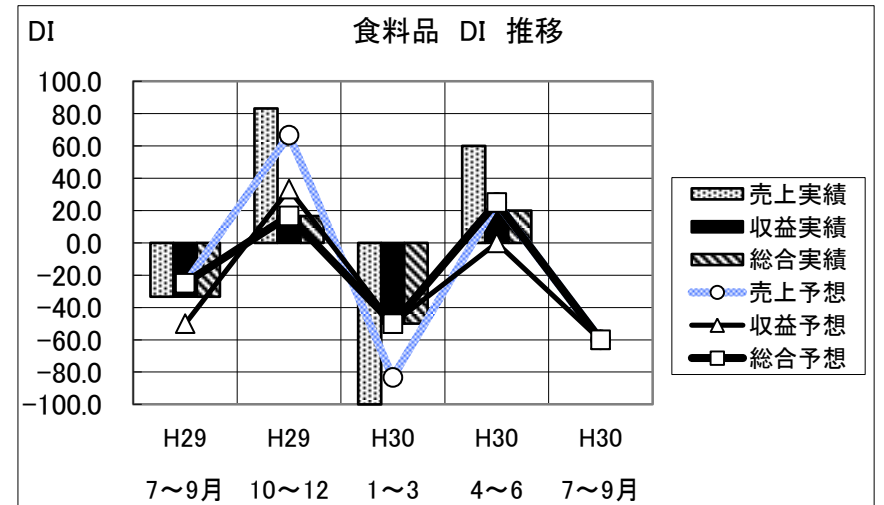
売上は前期比DI値は60%と上昇、前年同期比ではDI値 $\Delta 40.0\%$ と下降。収益では、前期比DI値で20.0%と上昇、前年同期比では $\Delta 60.0\%$ と下降。総合判断では前期比DI値は20.0%と上昇、前年同期比はDI値 $\Delta 60.0\%$ と、前期比では上昇も前年同期比では下降となっている。

向こう3ヶ月の見通し 売上DI値 $\Delta 60.0\%$ 、収益DI値 $\Delta 60.0\%$ 、総合判断DI値 $\Delta 60.0\%$ と当期に比べて業況は悪化する見通しである。いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっている。愛知県産小麦や三河湾産アサリ、東三河の農産物など地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業が見られ、今後も地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

### (食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月~6月 に比べて	前期比 平成30年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-40.0	60.0	-60.0
②製品・商品在庫	-40.0	-20.0	-40.0
③資金繰り	-40.0	-20.0	-40.0
④採算(収益)	-60.0	20.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	20.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	20.0	-60.0



#### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-33.3	83.3	-100.0	60.0	-60.0
収益	-33.3	16.7	-50.0	20.0	-60.0
総合	-33.3	16.7	-50.0	20.0	-60.0

## 【織物】

寝装関係は、多重織りガーゼの受注は安定しつつも、動きにやや落ち着きが出てきている。インテリア向けジャカードカーテンは、深刻な状況が続いており、産業資材も苦戦している状況。

### 向こう3カ月の見通し

多重織りガーゼについては継続した受注が見込まれる。

### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-60.0	-20.0	0.0
②製品・商品在庫	-40.0	-20.0	-20.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-75.0	0.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-20.0	-20.0

## 【漁網・ロープ】

個別企業によるバラツキはあるが、総合的には4・5月期は出荷(数量)・販売とも前年同月比を5%前後超えた。数量・金額ベースは増加しているが、原材料・運賃等の値上げによる収益の圧迫もあげられた。

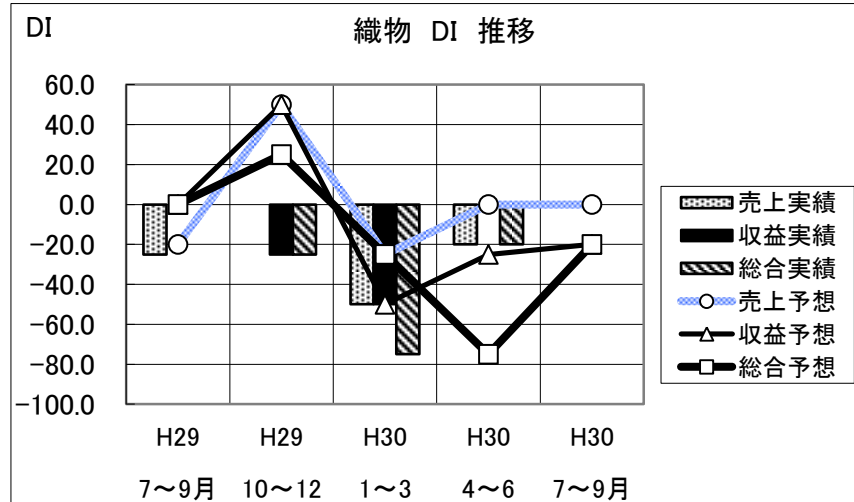
### 向こう3カ月の見通し

原材料・運賃等の値上がりにより7月以降は製品の販売価格が値上がりするため、今後の推移は不透明である。(繊維ロープ部会)

### (漁網・ロープ)

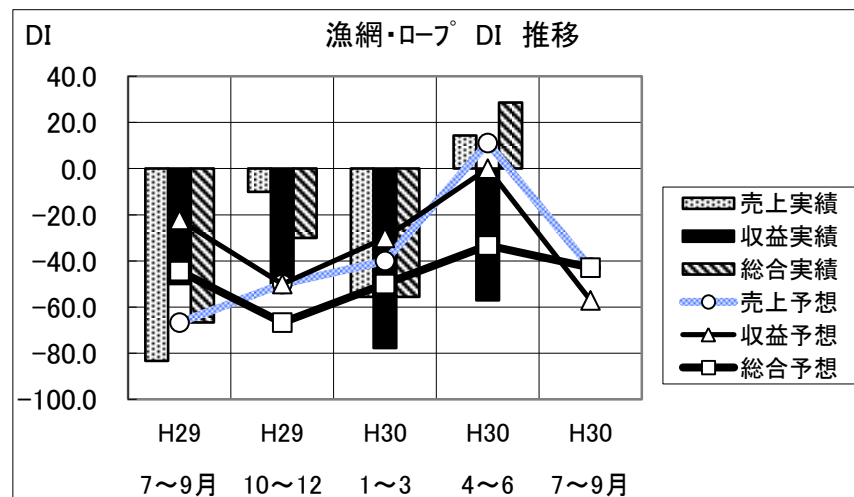
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-14.3	14.3	-42.9
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-14.3
③資金繰り	-14.3	0.0	-57.1
④採算(収益)	-42.9	-57.1	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	42.9	14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	14.3	28.6	-42.9



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-25.0	0.0	-50.0	-20.0	0.0
収益	0.0	-25.0	-50.0	0.0	-20.0
総合	0.0	-25.0	-75.0	-20.0	-20.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-83.3	-10.0	-55.6	14.3	-42.9
収益	-50.0	-50.0	-77.8	-57.1	-57.1
総合	-66.7	-30.0	-55.6	28.6	-42.9

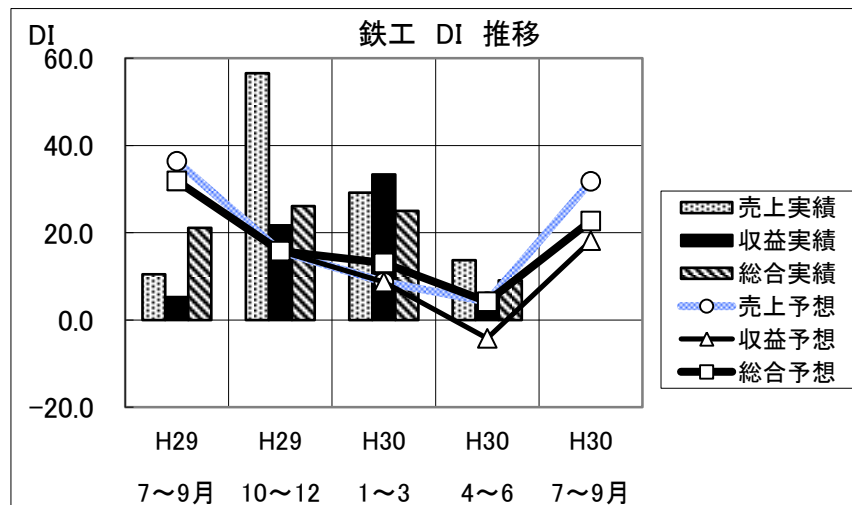
## [鉄工]

<工作機械関係> 日本工作機械工業会の受注総額(内需・外需)では、4月1,630億円、5月1,492億円、6月は1,592億円。好調な世界経済の影響で、いずれの月も前年同期比を超え、1～6月合計でも過去最高の高水準となっている。向こう3カ月の見通し 受注・生産ともに堅調な見通しであるが、過熱する米中経済摩擦の動向などの地政学リスクを懸念。

<自動車部品関係> トヨタの国内日当たり生産は、年度末商戦の反動もあり微減の1万2千台を中心に推移した。ミニバン・SUV車は好調も乗用車系が苦戦。向こう3カ月の見通し 主力車種の一服感があり、日当たり1万1千台強の推移が予測されている。(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	45.5	13.7	31.8
②製品・商品在庫	-9.1	9.1	13.7
③資金繰り	9.1	4.6	-4.6
④採算(収益)	27.3	4.6	18.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	59.1	50.0	31.8
⑥貴社の業況(総合判断)	31.9	9.1	22.7



#### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	10.5	56.6	29.2	13.7	31.8
収益	5.3	21.7	33.4	4.6	18.2
総合	21.1	26.1	25.0	9.1	22.7

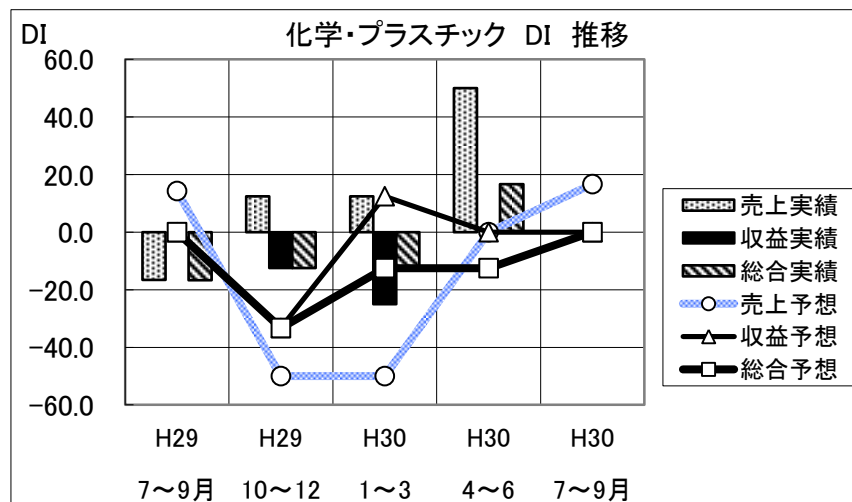
## [化学・プラスチック]

<化学工業> 国内向けは堅調。輸出は中国中心に好調。向こう3カ月の見通し 今期と同傾向の見込みである。

<プラスチック> 売上は堅調に推移している。原料や運賃等値上もあり採算を圧迫。向こう3カ月の見通し 売上は引き続き堅調な見込みだが、総合的には横バイの見通しである。(化学部会)

### (化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	66.6	50.0	16.7
②製品・商品在庫	0.0	-16.7	16.7
③資金繰り	16.7	16.7	0.0
④採算(収益)	16.6	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	16.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	16.7	16.7	0.0



#### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-16.6	12.5	12.5	50.0	16.7
収益	0.0	-12.5	-25.0	0.0	0.0
総合	-16.7	-12.5	-12.5	16.7	0.0

## 建設業

売上DI値は△54.5、前期実績1～3月期(11.1)に比して△65.6ポイントの下降、収益DI値は△45.5、前期実績1～3月期(△44.4)に比して1.1ポイントの下降、総合判断DI値は△36.3、前期実績1～3月期(△33.3)に比して3.0ポイントの下降。年度末の需要期を過ぎて売上・収益・総合とも下降となった。

向こう3カ月の見通し 最も動きの鈍い4～6月期を抜け、売上・収益・総合ともにDI値は上昇となった。(建設部会)

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-54.5	9.1
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	9.1	0.0	0.0
④採算(収益)	-27.3	-45.5	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-9.1	-18.2	9.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-18.2	-36.3	0.0

## 卸売業

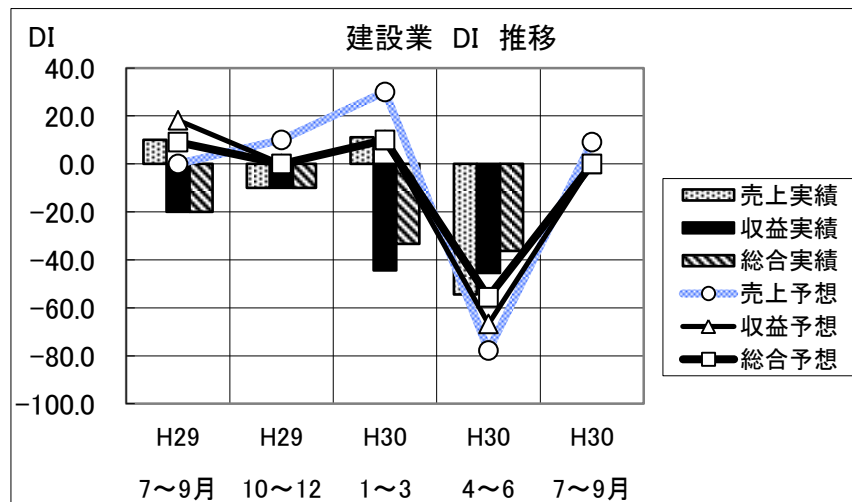
売上DI値は7.7、前期実績1～3月期(△56.2)に比して63.9ポイントの上昇。収益DI値は15.4、前期実績1～3月期(△31.3)に比して46.7ポイントの上昇、総合判断DI値は△43.8、前期実績1～3月期(△43.8)に比して59.2ポイントの上昇。売上・収益・総合ともに上昇しプラス値に転じた。

向こう3カ月の見通し DI値では売上・収益は下降、総合は横バイ。売上はマイナス値に転じたが、収益・総合はプラス値を維持した。

## 卸売業

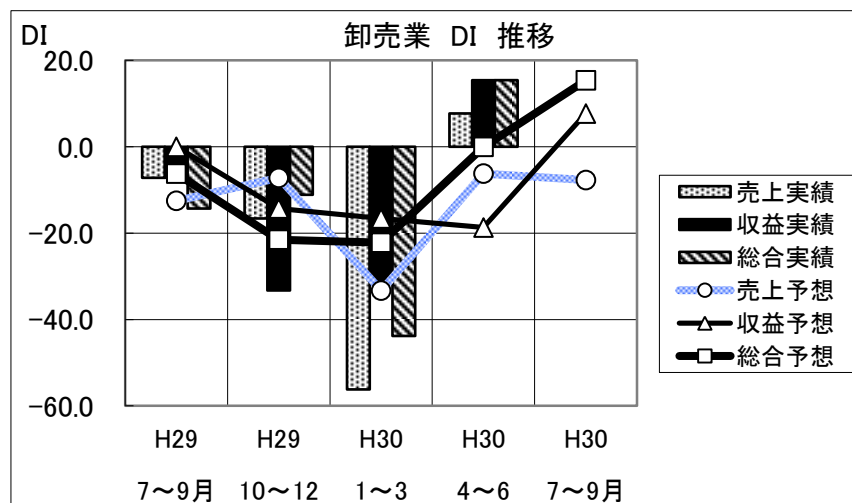
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7～9月 の見通し
①生産額・売上額	-38.4	7.7	-7.7
②製品・商品在庫	-30.8	-30.8	-30.8
③資金繰り	0.0	-7.7	7.7
④採算(収益)	7.7	15.4	7.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-30.8	-38.5	-15.4
⑥貴社の業況(総合判断)	7.7	15.4	15.4



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	10.0	-10.0	11.1	-54.5	9.1
収益	-20.0	-10.0	-44.4	-45.5	0.0
総合	-20.0	-10.0	-33.3	-36.3	0.0



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-7.2	-16.6	-56.2	7.7	-7.7
収益	-7.2	-33.3	-31.3	15.4	7.7
総合	-14.3	-11.1	-43.8	15.4	15.4

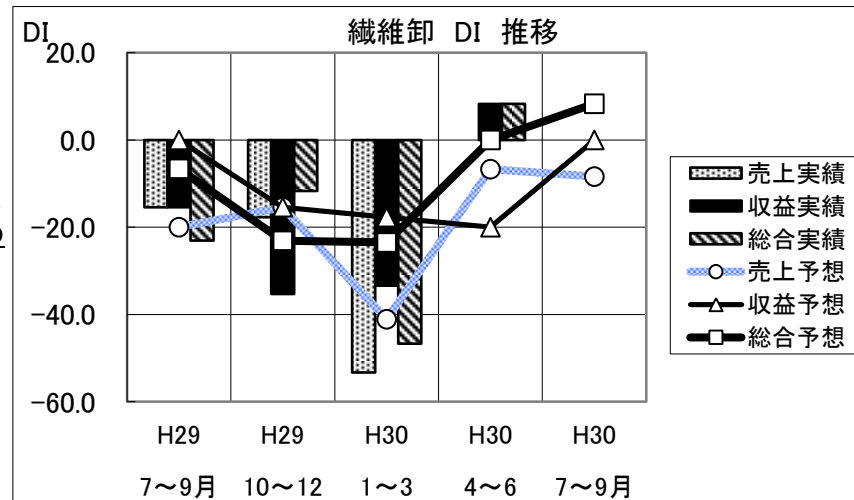
## 【繊維卸】

<インテリア>4月は昨年並みに推移。5月は連休明けから徐々に注文も落ち着き例年並み。春夏商材も予定通りの動きで、6月は閑散期で天候の悪さで動きが鈍るが、概ね例年並み。向こう3カ月の見通し4~6月の動きから7~9月も大きな変化はなさそう。在庫状況もあるが8月頃には処分でき、9月からは問題なく秋冬商品を投入できる見込み。<アパレル>素材では細番手強撚糸使いのポイル、オーガンジーの動きが良かった、また帆布ドビーなどもサンプル依頼あり。商品では夏物出荷ピーク時期だが全体的に低調。春夏素材は透け感のあるジョーゼット、パステルカラーの先染ボーダーに動きあり。向こう3カ月の見通し 素材では細番手強撚糸使いの織物は引き続き好調か。他には麻素材との複合素材、綿麻、レーヨン麻の引合いも出てきそう。反面、好調であった多重ガーゼの勢いが以前ほど無くなってきている。商品では夏物は期待薄。秋物の動きも不透明。国産先染衣料に期待。(繊維部会)

## (繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月~6月 に比べて	前期比 平成30年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	0.0	-8.4
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	0.0	-8.3	8.3
④採算(収益)	0.0	8.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	-33.3	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	8.3	8.3



## <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-15.4	-17.7	-53.3	0.0	-8.4
収益	-15.4	-35.3	-33.4	8.3	0.0
総合	-23.1	-11.7	-46.7	8.3	8.3

## 小売業

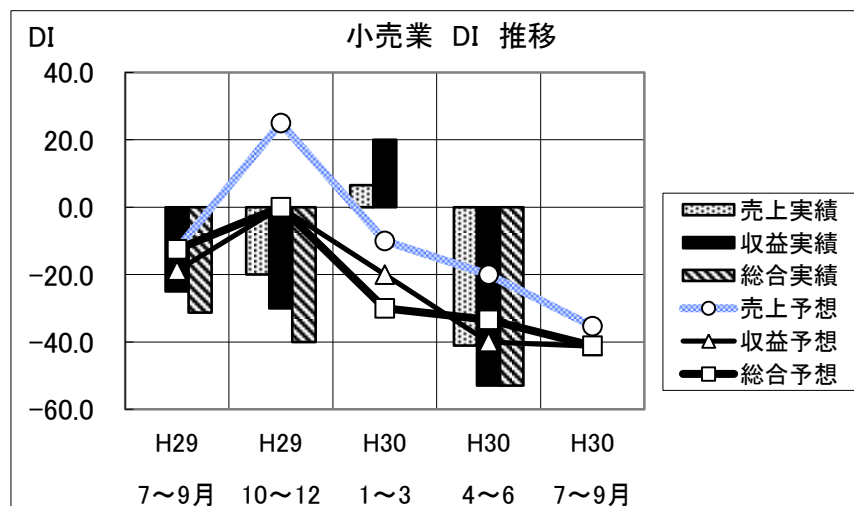
売上DI値は△41.1、前期実績1~3月期(6.6)に比して47.7ポイントの下降。収益DI値は△52.9、前期実績1~3月期(20.0)に比して72.9ポイントの下降、総合判断DI値は△52.9、前期実績1~3月期(0.0)に比して52.9ポイントの下降。年間で最も停滞する時期にあり、売上・収益・総合ともに下降となりマイナス値に転じた。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに水面下ながら上昇しマイナス幅が縮小した。消費意欲の停滞が続くなか、天候不順等による影響を懸念。7月から始まる「プレミアム付き商品券(蒲郡GOGO商品券)」による消費意欲高揚に期待したい。(商業部会)

## 小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月~6月 に比べて	前期比 平成30年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-35.3	-41.1	-35.3
②製品・商品在庫	-29.4	-23.5	-17.6
③資金繰り	-11.7	-29.4	-17.6
④採算(収益)	-35.3	-52.9	-41.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-23.5	-11.7	-5.9
⑥貴社の業況(総合判断)	-47.0	-52.9	-41.1



## <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	0.0	-20.0	6.6	-41.1	-35.3
収益	-25.0	-30.0	20.0	-52.9	-41.2
総合	-31.3	-40.0	0.0	-52.9	-41.1



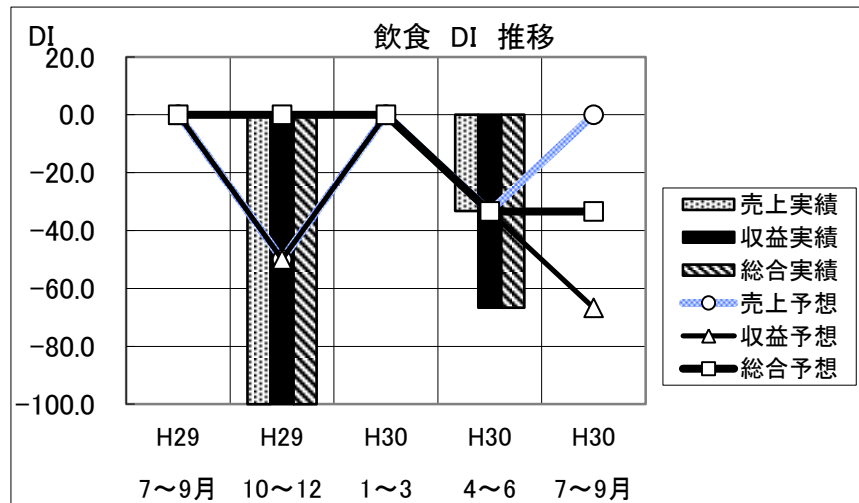
## [飲食]

全体的には大きな変化なく前年並み。お昼に比べて夜が少なく、夜は予約客がメイン。歓送迎会等の利用も小グループ化が進んでいるが、地元飲食店をご利用いただけて大変ありがたい。向こう3カ月の見通し 全体的にはあまり大きな変化はない見込みだが、観光客が増加するシーズンになるので例年並みの利用を期待している。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

### (飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-33.4	-33.3	0.0
②製品・商品在庫	-66.7	-33.3	-33.3
③資金繰り	0.0	-33.3	0.0
④採算(収益)	-66.7	-66.7	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.3	33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.4	-66.7	-33.4



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	0.0	-100.0	0.0	-33.3	0.0
収益	0.0	-100.0	0.0	-66.7	-66.7
総合	0.0	-100.0	0.0	-66.7	-33.4

## [石油等その他小売]

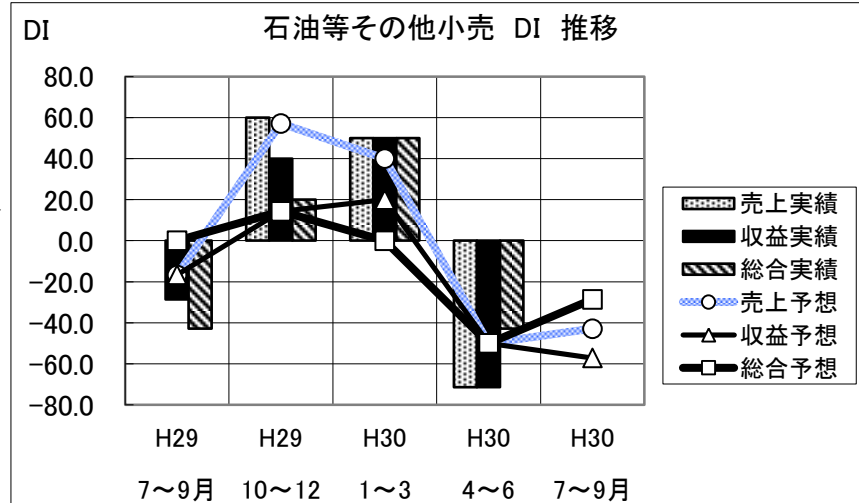
世界経済の回復により2017年は数年ぶりに需要超過に転じ高値圏で推移していた原油価格は、OPECの協調減産体制の堅持や、米国を中心とした中東情勢の変化も受けて一時70ドル台に達するなど、60ドル台後半中心に推移した。

向こう3カ月の見通し 供給面ではイラン・サウジアラビア・イスラエルなどで中東情勢の緊張が高まる一方で、米国シェールオイルの生産量は高水準を維持。一方で需要面では、中国・インド等が牽引する形で底堅い。(エネルギー部会)

### (石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-14.3	-71.4	-42.9
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-14.3
③資金繰り	-14.3	-28.6	-28.6
④採算(収益)	-42.9	-71.4	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	-28.6	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.6	-42.8	-28.6



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	0.0	60.0	50.0	-71.4	-42.9
収益	-28.6	40.0	50.0	-71.4	-57.1
総合	-42.9	20.0	50.0	-42.8	-28.6

## サービス業

売上DI値は△22.2、前期実績1～3月期(△27.2)に比して5.0ポイントの上昇、収益DI値は△22.2、前期実績1～3月期(△27.3)に比して5.1ポイントの上昇、総合判断DI値は△11.1、前期実績1～3月期(△9.1)に比して2.0ポイントの下降と、売上・収益のマイナス幅縮小は見られるも、いずれの数値も水面下の状況。

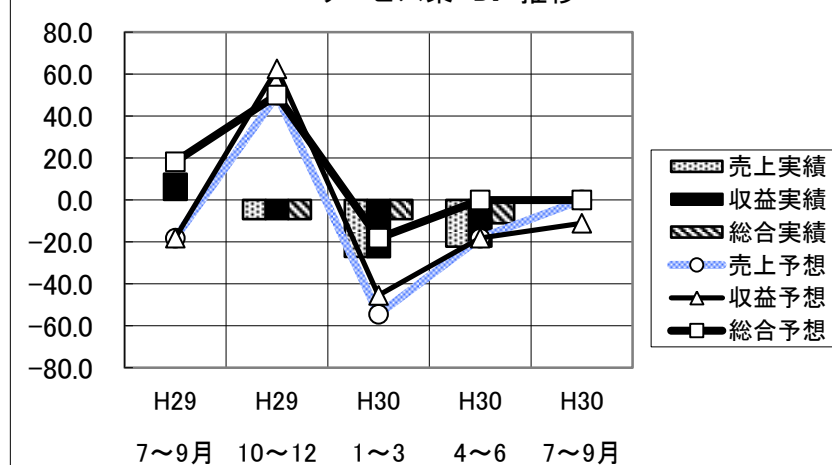
向こう3カ月の見通し 夏休みシーズンを控えて、売上・収益・総合ともに上昇の見通しとなっている。

### サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	22.2	-22.2	0.0
②製品・商品在庫	0.0	11.1	0.0
③資金繰り	11.1	0.0	0.0
④採算(収益)	22.2	-22.2	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-11.1	11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-11.1	0.0

### サービス業 DI 推移



#### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	0.0	-9.1	-27.2	-22.2	0.0
収益	12.5	-9.1	-27.3	-22.2	-11.1
総合	0.0	-9.1	-9.1	-11.1	0.0

## 【旅館】

4・5月の宿泊人数ベースは前年を上回る。特にインバウンドは前年比1.5倍程度の伸びで好調。一方で、その多くは一泊朝食と低料金帯の宿泊。インバウンドの9割は中国だが、欧米系の個人旅行も増加傾向にある。また、「形原温泉あじさい祭」「森、道、市場2018」「みかわはなび」等のイベントと連携を強化して、宿泊客獲得に努めたい。

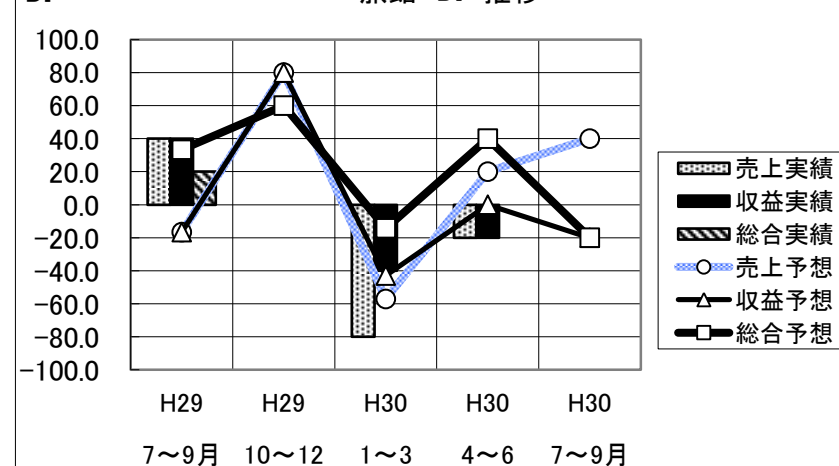
向こう3カ月の見通し 蒲郡のトップシーズンで、海水浴、三河大島、ラグーナは多くの賑わいを見せる。秋からはじまるJR東海の大型キャンペーン「愛知DC」には大いに期待をしている。官民一体となって愛知県のPRIに努めたい。また、地魚関係で「がまごおり撰魚」、「深海魚料理コンテスト」「まちじゅう食べる水族館」など複数の取り組みが出てきており、食文化の宣伝に積極的に協力していきたい。(観光部会)

### (旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	40.0	-20.0	40.0
②製品・商品在庫	0.0	20.0	0.0
③資金繰り	20.0	0.0	0.0
④採算(収益)	60.0	-20.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-20.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	20.0	0.0	-20.0

### 旅館 DI 推移



#### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	40.0	0.0	-80.0	-20.0	40.0
収益	40.0	0.0	-40.0	-20.0	-20.0
総合	20.0	0.0	0.0	0.0	-20.0

## 運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績1～3月期(11.1)に比して11.1ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績1～3月期(11.1)に比して11.1ポイントの下降、総合判断DI値は0.0、前期実績1～3月期(△11.1)に対して11.1ポイントの上昇と、売上・収益は下降ながら、総合では上昇。

向こう3カ月の見通し 売上・収益は下降も、総合では横バイの見通しである。

### 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	22.2	0.0	-11.1
②製品・商品在庫	11.1	11.1	11.1
③資金繰り	11.1	11.1	0.0
④採算(収益)	11.1	0.0	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	44.5	11.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	11.1	0.0	0.0

### [旅客・貨物輸送・水運]

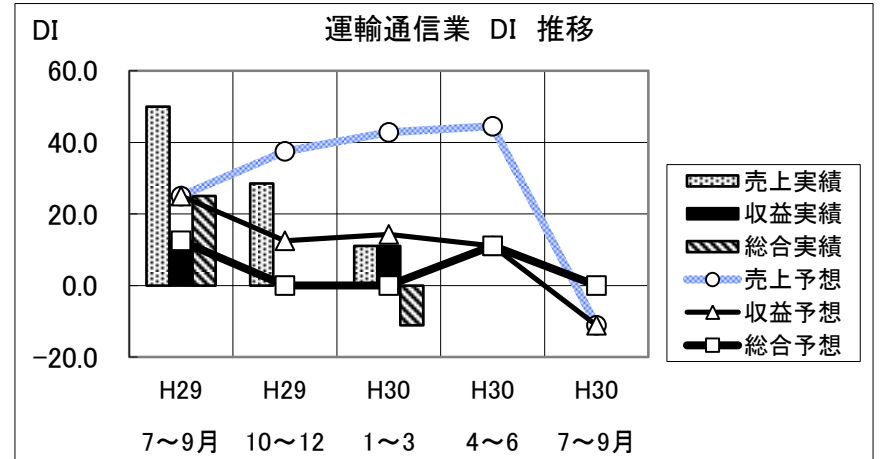
<貨物輸送> 完成車の欧米向け輸出は月1万台以上と好調を維持。海上コンテナ貨物輸出货量も中国向けが好調で増加傾向。鋼材移入も需要増で堅調。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は新型車が好調で引き続き月間平均1万台を超える見込み。海上コンテナ貨物輸出・鋼材移入も堅調で前期並みの見込み。

<旅客> 対前年同期比で、概ね同程度の売上を確保できる予定。バスツアーの集客減でテコ入れが必要。向こう3カ月の見通し 夏休み時期にはいり、前年同期をやや上回る程度の売上となる見込みである。(運輸交通港湾部会)

### (旅客・貨物輸送・水運)

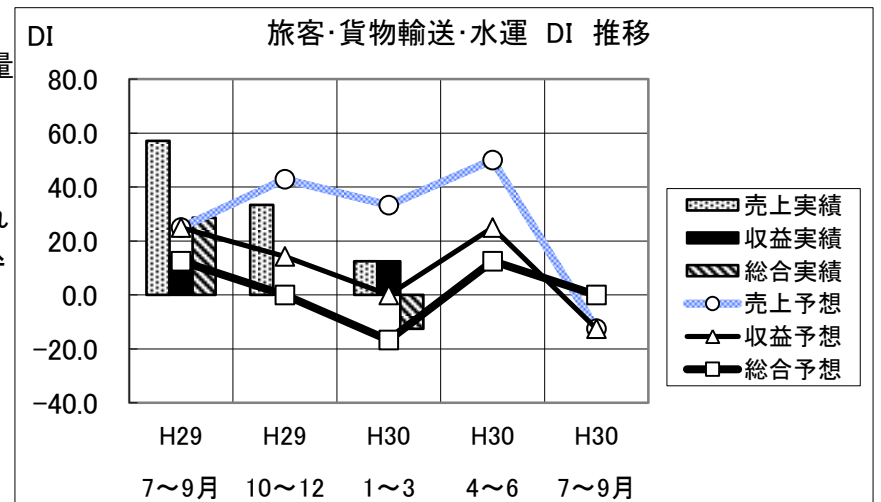
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年4月～6月 に比べて	前期比 平成30年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成30年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	0.0	-12.5
②製品・商品在庫	12.5	12.5	12.5
③資金繰り	12.5	12.5	0.0
④採算(収益)	12.5	0.0	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	37.5	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	0.0	0.0



#### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	50.0	28.5	11.1	0.0	-11.1
収益	12.5	0.0	11.1	0.0	-11.1
総合	25.0	0.0	-11.1	0.0	0.0

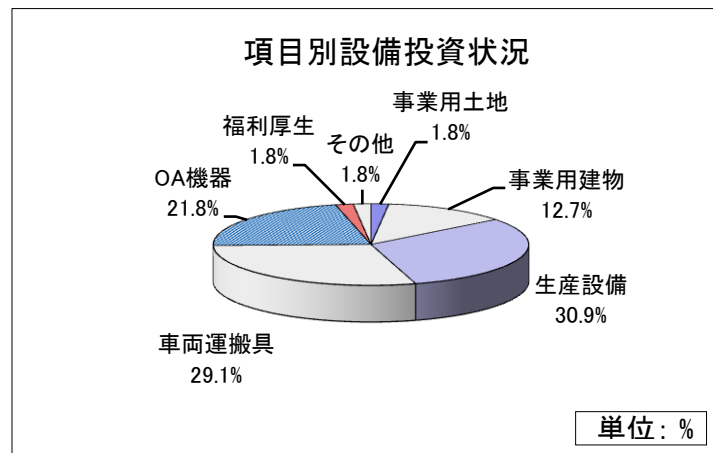
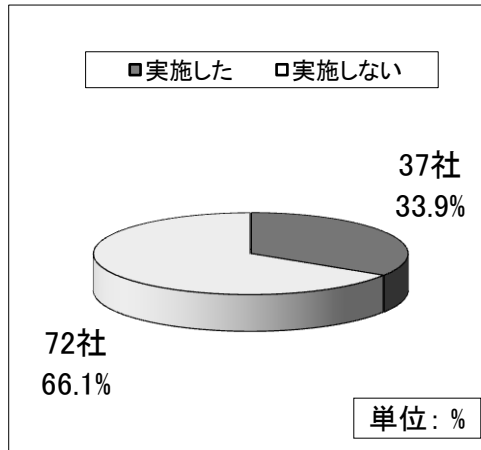


#### <業況判断DIの推移>

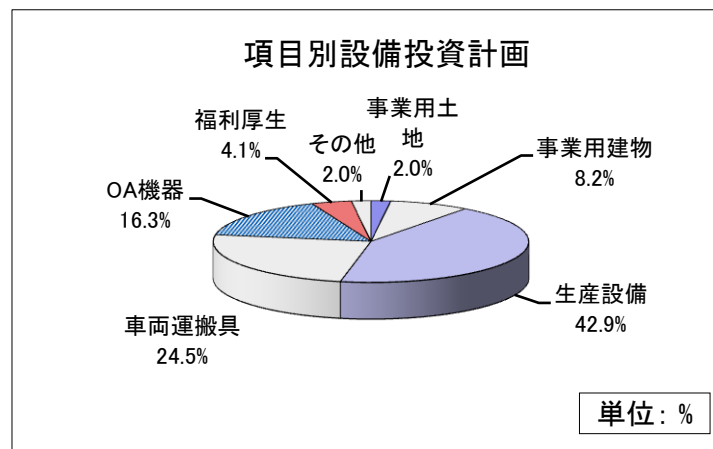
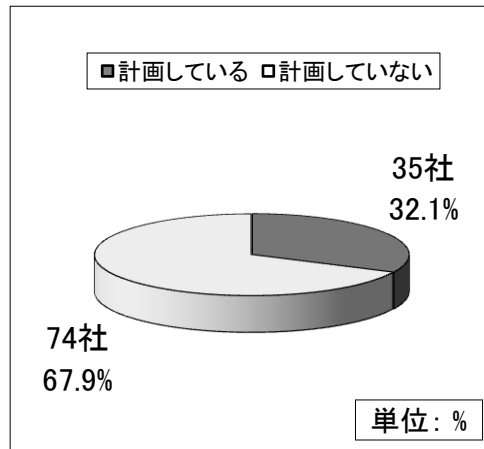
	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	57.1	33.4	12.5	0.0	-12.5
収益	14.3	0.0	12.5	0.0	-12.5
総合	28.6	0.0	-12.5	0.0	0.0

## 7. 設備投資動向

＜今期(H30. 4～6月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H30. 7～9月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	1	1
事業用建物	7	4
生産設備	17	21
車両運搬具	16	12
OA機器	12	8
福利厚生	1	2
その他	1	1
計	55	49

(単位: 件)

◎今期(H30.4～6月)、来期(H30.7～9月)設備投資実施、計画動向

(単位: 事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H30. 4～6月)	37	18	3	2	3	5	6
2. 来期 (H30. 7～9月)	35	19	2	0	3	5	6

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 109 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	52 47.7%
2	人手不足	47 43.1%
3	利幅の縮小	43 39.4%
4	原材料(燃料)高	39 35.8%
5	人件費の増加	26 23.9%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 50 社	人手不足 23 社 46.0%	原材料(燃料)高 22 社 44.0%	売上の停滞・減少 19 社 38.0%
建設業 11 社	売上の停滞・減少 7 社 63.6%	利幅の縮小 5 社 45.5%	人件費の増加 5 社 45.5%
卸売業 13 社	原材料(燃料)高 8 社 61.5%	売上の停滞・減少 7 社 53.8%	利幅の縮小 6 社 46.2%
小売業 17 社	売上の停滞・減少 12 社 70.6%	利幅の縮小 8 社 47.1%	競争激化 7 社 41.2%
サービス業 9 社	売上の停滞・減少 5 社 55.6%	人手不足 5 社 55.6%	利幅の縮小 4 社 44.4%
運輸通信業 9 社	人手不足 6 社 66.7%	原材料(燃料)高 6 社 66.7%	人件費の増加 4 社 44.4%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.79

番号	調査項目	単位	H30. 08報告	基準日	H30. 05報告	基準日	H30. 02報告	基準日	H29. 11報告	基準日	出典
1	人口	人	80,361	H30.6.1	80,423	H30.3.1	80,532	H30.1.1	80,630	H29.10.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		2,783		2,722		2,680		2,634		
2	世帯数	世帯	32,158	H30.6.1	31,998	H30.3.1	31,942	H30.1.1	31,871	H29.10.1	"
	(うち外国人)		1,329		1,306		1,284		1,264		
3	15才～65才生産人口	人	48,187	H30.6.1	48,285	H30.3.1	48,419	H30.1.1	48,513	H29.10.1	"
	(うち外国人)		2,297		2,261		2,227		2,182		
4	建築確認届出件数	件	/	/	/	/	/	/	/	/	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
5	全国完全失業率	%	2.2	H30.5月	2.7	H29.12月	2.8	H29.9月	2.7	H29.6月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	1.7	H30.1月～3月	2.0	H29.10月～12月	2.3	H29.7月～9月	2.7	H29.4月～6月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
6	全国有効求人倍率	倍	1.60	H30.5月	1.59	H30.3月	1.56	H29.11月	1.52	H29.8月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.96	H30.5月	1.19	H30.2月	1.19	H29.11月	1.04	H29.8月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く)前年同月比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比%(実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515.9		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	521.2		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	510.9		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	506.5		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	510.8		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	501.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	498.0		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	501.8		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	502.7		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	505.3		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	509.1		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,035,598	513.0		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,039,214	489.5		▲ 1.9	321.2
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 28.5	775,277	473.9		▲ 0.2	292.1
2010年度	334	5.1	0.52	18.7	819,020	480.5		▲ 0.5	322.9
2011年度	284	4.5	0.65	6.8	841,246	474.1		▲ 2.5	303.1
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 4.3	893,002	482.4		1.1	323.7
2013年度	265	4.0	0.93	7.9	987,254	489.6		1.5	343.0
2014年1月	238	3.7	1.04	22.6	77,843			1.1	29.2
(平成26年)2月	232	3.6	1.05	16.1	69,689	127.2	1.0	▲ 2.5	33.6
3月	246	3.6	1.07	1.1	69,411			7.2	48.1
4月	254	3.6	1.08	46.1	75,286			▲ 4.6	18.8
5月	242	3.5	1.09	▲ 1.4	67,791	126.7	▲ 1.8	▲ 8.0	20.6
6月	245	3.7	1.10	15.5	75,757			▲ 3.0	26.5
7月	248	3.8	1.10	8.4	72,880			▲ 5.9	28.5
8月	231	3.5	1.10	0.3	73,771	125.3	0.0	▲ 4.7	20.6
9月	233	3.6	1.09	▲ 1.2	75,882			▲ 5.6	31.5
10月	233	3.5	1.10	▲ 1.6	79,171			▲ 4.0	24.0
11月	219	3.5	1.12	▲ 5.1	78,364	134.5	0.6	▲ 2.5	23.9
12月	210	3.4	1.15	1.9	76,416			▲ 3.4	23.1
2015年1月	231	3.6	1.14	11.2	67,713			▲ 5.1	23.7
(平成27年)2月	226	3.5	1.15	16.5	67,552	131.8	1.5	▲ 3.3	28.8
3月	228	3.4	1.15	9.8	69,887			▲ 9.6	41.8
4月	234	3.3	1.17	▲ 18.7	75,617			1.4	19.8
5月	224	3.3	1.19	0.4	71,720	131.4	0.1	4.8	20.9
6月	224	3.4	1.19	0.3	88,118			▲ 2.0	27.9
7月	222	3.3	1.21	1.0	78,263			▲ 0.2	28.2
8月	225	3.4	1.23	▲ 5.8	80,255	130.3	0.1	2.9	21.1
9月	227	3.4	1.24	▲ 0.3	77,872			▲ 0.4	30.5
10月	208	3.1	1.24	12.2	77,153			▲ 2.4	24.0
11月	209	3.3	1.25	▲ 0.8	79,697	138.2	▲ 0.3	▲ 2.9	23.9
12月	204	3.3	1.27	0.3	75,452			▲ 4.4	23.9
2016年1月	211	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	213	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	133.8	0.8	1.2	27.5
3月	216	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	224	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	216	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	133.0	0.2	▲ 1.1	22.3
6月	210	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	203	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	212	3.1	1.37	0.2	82,242	131.4	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	204	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	195	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	197	3.1	1.41	24.5	85,051	140.2	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	193	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	197	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	188	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	134.6	0.7	▲ 3.8	31.2
3月	188	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	197	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	210	3.1	1.49	8.6	78,481	134.6	0.5	▲ 0.1	23.7
6月	192	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	191	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	189	2.8	1.52	19.7	80,562	134.1	0.5	0.6	23.3
9月	190	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	181	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	178	2.7	1.56	5.8	84,703	143.0	0.3	1.7	25.8
12月	174	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	159	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	166	2.5	1.58	7.8	69,071	136.7	▲ 0.1	0.1	29.6
3月	173	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	180	2.5	1.59	11.4	84,226				22.5
5月	158	2.2	1.60	15.3	79,539				23.6
6月					81,275				29.2

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。